



## 枚方不登校：中学校・微減、小学校・鈍化傾向も増加つづく

少人数学級、教員定数増、学習内容・授業時数の削減で、負担軽減が不可欠に  
全国で不登校が35万人を超える中で、枚方市の不登校の状況が、枚方市の教育に関する事務の点検及び  
評価報告書(令和5年度事業分)の中で、取り上げられています。

### 枚方 不登校 中学校で微減、 小学校は鈍化傾向も増加続く

2023 年度に小中学校合わせて 1000 人を超える不登校となり、市教委もその後、校内教育支援ルームの全校設置、不登校支援員の全校配置を進めていました。

2024 年度には、中学校では不登校生徒数としては微減となり、小学校も増加が続くものの増加率が鈍化傾向となっています。

評価報告書では「枚方市立小・中学校における増加率や新規発生件数の鈍化」については取り組みを評価できるとしています。



### 校内教育支援ルーム設置が広がるも、内容、あり方に意見、課題も

しかし、現場では、校内支援ルームの全時間に支援員が配置できなかつたり、子どもの来室人数が多くなり対応しきれない中で、学年の教員が授業のない時間に対応する必要があり、教員不足の対応に追われる中で、現場の教員負担が大きいという声も少なくありません。

また、保護者などからも、校内支援ルームでの対応、あり方に疑問や様々な意見も出されています。

通常の教室での学級人数、学習内容の多さ、教員定数の少なさなど、教職員が向き合えるだけの定数増と、子どもの負担軽減が不可欠になっています。

### 文科省・審議会では不登校児童生徒に 全国・小中の不登校数 35 万人超

#### 「特別の教育課程」による指導、「個別の指導計画」の作成に向け検討

2024 年度には全国の小中学生の不登校数が35万3900人と過去最高、12年連続の増加となっていることが報告されています。特に小学生での増加が顕著となっています。

文部科学省は次期学習指導要領に向けての検討の中で、増加する一方の不登校への対応で、現在進められる校内教育支援ルームでの対応に、不登校児童生徒のための「特別の教育課程」による指導や、「個別の指導計画」の作成に向けての検討を進めていると、新聞等で報道されています。

しかし、この点についても、現場の教職員の実感からは、教員不足の中で、増加していく不登校生、校内支援ルームへの来室者に、誰が指導計画、教育課程をつくり、指導していけばいいのかとの声も聞かれます。

### 校内支援ルーム、不登校特例校だけでは限界

#### 「登校の児童生徒を生み出さないようにすることが最優先」(不登校特例校前校長)

「そもそも通常校で不登校の児童生徒を生み出さないようにすることが最優先であり、「授業が楽しい」「学

校に行きたい」「友達と一緒に活動したい」「信頼できる先生がいる」という気持ちを育めるような学校づくりが求められる。」(黒沢 正明：前八王子市立高尾山学園校長)

不登校特例校の前校長からも、このようなコメントが寄せられています。

次期学習指導要領について、審議会では初めから「学習内容、授業時数を『今より増やさない』として検討を進めていますが、欧米に比べ多すぎる学級定員の見直しとともに、これらの点にこそメスを入れて、根本的な転換をすることが求められます。

## 支援教育充実審議会 答申 10/30

### 「(仮称)枚方の支援教育の在り方(素案)」パブコメを予定

枚方市支援教育充実審議会は、10月30日に最終答申を示しています。市教委はこれに基づいた、市教委としての今後の支援教育の方向性「(仮称)枚方の支援教育の在り方(素案)」も同時に示しており、12月5日～24日にかけて、パブリックコメントを予定しています。

### 「特別支援教室構想」は「慎重に進める」提案に

審議会の答申の最後には以前ニュースでも取り上げた「特別支援教室構想」が盛り込まれていますが、「特別支援教室構想のモデル校を作ることに関し、…今後の動向をふまえながら慎重に進めていただくことを提案します。」との記述になっています。

答申と合わせて市教委 HP に示されている、市教委としての今後の方向性を示す「(仮称)枚方の支援教育の在り方(素案)」では、答申の内容の重要項目を上げ、取り組みを進める方向を示しており、具体的な内容は今後になると思われます。

### 市教委の「(仮称)枚方の支援教育の在り方(素案)」12月5日～パブコメ予定

市教委では、この「枚方の支援教育の在り方について(案)」を、12月5日からパブコメを予定しています。市教委の示すスケジュールでは、パブコメを受けて2月に教育委員会協議会に具体案を示し、3月に「枚方の支援教育の在り方」を策定するとスケジュールが示されています。

パブコメについては、今後枚方市、市教委のホームページに詳細が掲載されると思われます。

パブコメをうけて、今後、具体的な内容がどのようなようになるかが注目されます。

### 「支援教育の在り方(素案)」の主な内容

素案の内容は、冒頭に「ともに学び、ともに生きる」従来の取り組みを上げ、国際的なインクルーシブ教育の広がり、重要性を挙げています。

学びの場の検討や就学相談についても丁寧な対応、子どもの意思確認にも触れながら、診断書がなくても柔軟に検討するとしています。

そのうえで、子どもの特性を理解して、合理的配慮が学校のさまざまな場面で対応できるように、個別の支援計画などの活用、関係機関との連携を含めて、支援学級、通級指導教室を含む支援教育の充実を挙げています。

### 条件整備の改善、保障が不可欠

現場では、ダブルカウントの市費講師が16人不足のまま、インクルーシブや合理的配慮に支障をきたしているのが現実です。通級指導教室も、入室数が増加の一方で、支援の手が行き届かない実態もあちこちで職場から聞かれます。教育条件の改善、市教委の取り組み全体の見直しと合わせて、パブコメに現場の声を反映させることが重要です。

支援教育充実審議会答申、「(仮称)枚方の支援教育のあり方(素案)」



## 市職労、年末一時金賃金確定交渉

### 市費教職員 昨年を上回る賃上げに 通勤手当の改定、新設も

枚方市の職員でつくる、枚方市職員労働組合は、来年度の賃金、労働条件について、市当局に要求書を提出、交渉を行った結果、11/20に最終回答が示されました。

内容は、物価高騰の中で、職員の実際の現場での働きに見合うものからは十分といえないものの、昨年を上回る賃上げなどが持ち込まれるものとなりました。

#### 昨年上回る賃金引上げ

最終回答で、給与等の引き上げについては、任期付き常勤講師で約1万円の月給与引き上げ、会計年度任用職員も週31時間勤務の場合月額、約7800円～約1万円の引き上げとなっており、4月にさかのぼっての実施で、差額支給になります。

ボーナスは年間で0.05月引き上げ、この12月からの実施になり、地域手当については、2026年4月からの実施となっており、4月にさかのぼって実施の府費教職員との違いが出ています。

#### 市民サービス、市職員待遇にしわ寄せの駅前再開発の転換を

枚方市は、貴重な駅前の広大な市有地を民間企業に売却する上、民間企業に多額の市財政を投入する、伏見市長肝いりの大規模再開発計画がまだ断念されていません。

そのために、市の施設利用料引き上げなど市民負担を増やし、市有施設の統廃合、市民サービスの削減、市職員の待遇改善に大きなしわ寄せが起きています。

学校でも、さまざまな支援員の方や、市費講師をはじめ多くの市費教職員に支えられ、今後も学校運営に欠かせない存在となっています。

これらの教職員の確保や、ゆとりをもって業務に当たれるように、さらなる待遇改善に取り組むことが求められています。

#### 市費教職員 賃金交渉への最終回答

##### 1. 給与等の引き上げ

- 任期付き常勤講師  
月給与約1万円の引き上げ  
会計年度任用職員(週31時間勤務)  
月額約7,800円～約1万円の引き上げ  
※ 2025年4月にさかのぼって引き上げ

- ボーナス(一時金)  
年間0.05月分引き上げ  
※ 2025年12月分から引き上げ

- 地域手当  
現行11%⇒12%へ引き上げ  
※ 2026年4月より実施

##### 2. 通勤手当の改定

- 交通用具使用者(車、バイク、自転車)の10Km以上の手当てを200円～ひきあげ  
※ 2026年4月より実施
- 月5000円を上限に駐車場等の利用に対する手当を新設  
※ 2026年10月より実施

## 守れ！平和・くらし、かがやけ！憲法・民主主義 緊急枚方市民集会

12月7日(日) 13:30～ 岡東中央公園広場

集会後、近隣パレードを予定(雨天中止)

呼びかけ 枚方革新懇及び集会実行委員会

## 登校拒否・不登校、社会的ひきこもりから回復自立へ 講演会と無料相談会in枚方

NPOおおさか教育相談研究所

### 講演 「登校拒否・ひきこもりの今を共に生きる —生きづらさへの理解と適切な援助を—」

講師 松尾 裕子さん(教育相談おおさか相談員)

2026年1月25日(日) 13:30～

枚方市立生涯学習センター大会議室 ステーションヒル枚方5階

来年1月25日(日)にNPO大阪教育相談研究所による、枚方で不登校、社会的ひきこもりに関する講演会と個別相談会が予定されています。毎年府下各地で開催されている、長年続く貴重な取り組みです。

#### 39年の歴史を持つ不登校・ひきこもり支援の取り組み

NPOおおさか教育相談研究所は、退職教職員・現職教職員で構成する「登校拒否・不登校、社会的ひきこもり」の相談・支援団体です。

1985年以来39年の歴史を持ち、NPOになって12年目です。今までに総計4万3,000件の相談支援をおこなってきました。最近は学校などの研修会にも参加し、教職員の個別相談支援にもとりこんでいます。

新聞、テレビなどのマスコミでも、不登校にかかわって、大阪教育相談研究所の活動が取り上げられ、取材に応じてきました。

#### 府下各地で開催される 講演と相談会

#### 保護者、教職員、SC、SSWなど、たくさんの学校関係者の参加を

取り組みの一環として、府下の各地で、市民団体、教職員組合や、親の会などと連携して、講演と相談会を開催。不登校やひきこもりをみんなで考えるとともに、当事者や保護者の声を聴き、支えあい、励ましあえる関係づくり、社会的支援につなげていく取り組みを進めています。

学校現場で不登校に直面する先生方や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保護者の方など多くの方に参加いただき、一緒に考えていきたいと思っています。

ぜひご参加ください。

参加無料、予約は不要です

#### 第24回枚方の教育のつどい

2026年2月7日(土)13:30～

枚方市生涯学習センター大会議室  
(ステーションヒル枚方5階)

講演「子どもの発達とタブレット」  
～世界に広がるICT教育の見直し～  
講師 田中康寛さん(大阪教育文化センター)

欧米でのICT教育の最前線を紹介しながら、教育の在り方を考えていきます。

教育実践講座

新学期の学級づくり

「今日も行っていいかな？」と  
思えるクラスを 学級ひきこもり克服の第一歩  
みんなと一緒に創っていき

1月24日(土) 13時半 講師：山崎 敬史さん  
たかつガーデン 3Fロース  
資料代500円(サポーター無料) 大阪教育文化センター